A病棟の卒後2年目看護師と先輩看護師が設定している卒後2年目看護師の到達目標の実態調査

岩本　実里　　木村佳奈美　　伊東　成美　　南條　久乃

静岡赤十字病院　2-7病棟

要旨：　A病棟では，2年目看護師教育を検討するために2年目看護師と，先輩看護師が設定する2年目看護師の到達目標とその違いを明らかにするアンケート調査を行った．アンケートは赤十字の看護師の看護実践能力の指標レベルⅠを基に作成し，到達したい優先度の高い項目を選択してもらった．アンケート調査し，到達目標として卒後2年目看護師と先輩看護師が回答した項目を比較した．結果，患者のニーズへの気づきと対応，経験の少ない技術に対する認識，チーム医療への意識について特徴が見られた.そして到達したい項目の両者の共通視点は，「対象のニーズに目を向けようとしている」「対象を一個人として尊重し受容的・共感的態度で接することができる」「その場に応じて自分の考えを述べられるよう努力する」であった．しかし，到達目標が共通していても，達成に向けて感じている内容に違いがあり，目標としている理由が異なることがわかった．今後は，目標達成に向け思いを共有できる支援が必要と示唆された．

Key words：卒後2年目看護師，先輩看護師，到達目標

Ⅰ．はじめに

新人看護師は，院内共通の教育プログラムがあり，それを元に病棟内でも指導をすることができていた．しかし，卒後2年目になると共通したプログラムはない．そのため，当病棟では，卒後2年目看護師への指導について関心があり話題にはなるものの，指導の焦点を絞ることができずにいる現状があった．そこで，卒後2年目看護師への教育プログラムを検討することにした．まず，文献検討を行った．

卒後2年目看護師の思いや状況については，内野ら[1]が，卒後2年目は体験を通して専門職者としての自覚と行動が芽生え始める時期であり，先輩看護師に対して，支援と理解，見本となる先輩像を示すことを求めていると報告しており，先行研究によって，明らかにされつつあることがわかった．

卒後2年目看護師への指導については，西[2]によると，施設における卒後2年目看護師への教育や教育担当者の教育能力に関する具体的な内容を示す研究はないとされており，一般的に導入できるような卒後2年目看護師に対する教育プログラムは見つからなかった．

また，指導をしている先輩看護師の実態について塚本[3]は，先輩看護師は，語りの場が少ない状況のなか，成長してほしいと思いながら自身の経験をもとに卒後2年目看護師と関わっていると報告している．ここから先輩看護師が試行錯誤していることがわかり，当病棟も同じ現状であるといえた．さらに，村上ら[4]は卒後2年目看護師と看護管理者に到達目標を調査した結果，70%が互いに到達目標を伝えていると認識しているにもかかわらず，一致しない到達目標があったとしており，卒後2年目看護師と先輩看護師との間には認識の差があることがわかった．

以上より，卒後2年目看護師に対する確立した教育プログラムがない中，実態を把握しないまま，卒後2年目看護師への教育において焦点を絞り介入することは困難であり，まずは実態を把握することが必要であると考えた．

Ⅱ．目　的

1. 病棟の卒後2年目看護師と先輩看護師が設定している，卒後2年目看護師の到達目標を明らかにすること．
2. 卒後2年目看護師と先輩看護師との間の到達目標の設定の違いを明らかにすること．
3. 卒後2年目看護師教育を検討するための示唆を得ること．

Ⅲ．方　法

1. 研究対象者

　内科系A 病棟に所属する看護師．ただし，管理職である看護師長と看護係長，新人看護師は除いた．

2. 研究期間

　平成30年4月～平成30年11月

3. データ収集の方法

　1）アンケートの作成（図1）

卒後２年目看護師用

教育係アンケート

病棟教育係では今年度より、卒後２年目看護師への教育について検討を行っていきたいと考えています。そこで、スタッフの皆様にアンケートのご協力をお願いしたいと思います。アンケートへの参加は自由意志です。

アンケート結果を病棟や病院内外に公表する可能性がありますが、回答者が特定されることがないよう匿名性を守ります。アンケート集計後はシュレッダーで裁断し、破棄します。アンケートの回答を持って、上記内容に同意したこととします。ご協力お願いいたします。

卒後２年目看護師の到達目標（別紙参照）の中で、２年目看護師として到達したい優先度の高いものの番号を５つあげてください。各々をあげた理由についても記載お願いします。

到達目標番号	理由

ご協力ありがとうございました。今後の病棟での教育に活かさせていただきます。

おわりに、今後病棟の勉強会として実施してほしい内容がありましたら以下に記載お願いします。

10/10 までに休憩室の回収 BOX に入れてください。

教育係

先輩看護師用

教育係アンケート

病棟教育係では今年度より、卒後２年目看護師への教育について検討を行っていきたいと考えています。そこで、スタッフの皆様にアンケートのご協力をお願いしたいと思います。アンケートへの参加は自由意志です。

アンケート結果を病棟や病院内外に公表する可能性がありますが、回答者が特定されることがないよう匿名性を守ります。アンケート集計後はシュレッダーで裁断し、破棄します。アンケートの回答を持って、上記内容に同意したこととします。ご協力お願いいたします。

卒後２年目看護師の到達目標（別紙参照）の中で、２年目看護師に到達してほしい優先度の高いものの番号を５つあげてください。各々をあげた理由についても記載お願いします。

到達目標番号	理由

ご協力ありがとうございました。今後の病棟での教育に活かさせていただきます。

おわりに、今後病棟の勉強会として実施してほしい内容がありましたら以下に記載お願いします。

10/10 までに休憩室の回収 BOX に入れてください。

教育係

到達目標
(1)日常のケアに必要な基本的知識（バイタルサイン、検査値などの正常値、所属部署の代表的な疾患の病態生理、治療）を活用できる
(2)助言を得ながら日常の体験の中から気づき　学ぼうとする学ぼうとする
(3)経験から対象にとって苦痛となる事を感じることができる
(4)助言を得ながら優先度を決定できる
(5)時間をかければ自分で判断することもある
(6)断片的だが状況把握ができる
(7)指導を受けながら倫理上の問題点について着目できる
(8) 倫理的ジレンマに陥った時、赤十字の原則に基づいて判断しようとしている
(9)対象のニーズに目を向けようとしている
(10)時間をかければ適切な行為を選択することがある
(11) 対象を一個人として尊重し受容的・共感的態度で接することができる
(12)守秘義務を遵守し、プライバシーに配慮した実践ができる
(13)対象および家族に実施しようとする行為について説明を行い同意を得て実践ができる
(14)自分の責任を明確にするために、対象に担当であることを伝えている
(15)助言を得ながら対象のニーズを充足する　ことがある
(16)行為をすることとで自分なりの満足感を　得ることがある
(17)助言を得ながら自分の行為を振り返ることができる
(18)病院･看護部の理念や目標、所属部署の目標が理解できる
(19)所属部署の概要･看護目標・体制について理解できる
(20)所属部署の目標達成のための活動に参加できる
(21)助言を恵ながら個人目標が達成できる
(22)時間を守り行動することができる
(23)就業規則に関する諸手続きの報告の必要性がわかる
(24)病院内の各病棟及び場所と診療科を対象に説明できる
(25)医師の指示に関する（オーダーシステム）ルールがわかる
(26)対象の負担を考慮し、物品を適切に使用する
(27)施設内の診療情報に関する規定を理解する
(28)助言を得ながら、対象などに対し適切な情報提供を行う
(29)プライバシーを保護して診療情報や記録物を取り扱う
(30)看護記録の目的を理解して、看護記録のガイドライン等に即して正確に作成することができる
(31)自分の健康管理に気を遣い職員健診を受けている
(32)決められた業務を助言を得ながら時間内に引き継ぐことができる
(34)自己の能力を超えた看護が求められる場合には、支援や指導を自ら得たり、チーム員に相談できる
(34)業務上の報告･連絡･相談を助言を得ながら適切に行うことができる
(35)助言を得ながら複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動している
(36)自分の役割と責任を理解し、ともに働く同僚の行動に気づいて声かけができる
(37)助言を得ながら関連各部門・他職種と連携できる
(38)自己の能力を超えた看護処置が求められ　る場合には、チーム員に相談できる
(39)医療安全･感染防止･防災マニュアルを見て、指導を受けながら行動できる
(40)助言を得ながら、ヒヤリ・ハット事例や事故報告の必要性がわかり、速やかに報告できる
(41)助言を得ながら、よく使用する医療材料・機器の正しい取り扱いができる
(42)指導を受けながら、薬品（麻薬、危険薬剤、常備薬）の正しい取り扱いができる
(43)血液製剤の特性を知り、マニュアルに沿って適切に請求･受領･保管する
(44)施設内の消火設備の定位置と非難ルートを把握し、対象に説明できる
(45)廃棄物（針、血液汚染等）の処理が適切にできる
(46)看護部門や所属部署の教育計画にそって学習する
(47)助言を得ながら自分の学習課題を明確にできる
(48)その場に応じて自分の考えを述べられるよう努力する
(49)所属部署の業務改善や研究活動を知っている
(50)院内外の看護研究発表会･業務改善発表会、研究会に参加する
(51)学生の実習目的･目標･内容を知っている
(52)国内外の赤十字活動に関心を持つ
(53)赤十字概論について理解する
(54)院内外における赤十字の諸活動を理解する
(55)災害発生時（地震･火災・水害･停電等）には、決められた初期行動を円滑に実施する

図1　アンケート

赤十字キャリア開発ラダーの「赤十字の看護師の看護実践能力の指標レベルⅠ」を基に，卒後2年目看護師と先輩看護師とで，質問の文章が異なるアンケートを作成した．

2）質問内容

（1）卒後2年目看護師への質問：2年目看護師として到達したい優先度の高い5つの項目とその理由．

（2）先輩看護師への質問：2年目看護師に到達してほしい優先度の高い5つの項目とその理由．

3）アンケートの配布

研究対象者24名に主旨及び参加は自由意志であることを明記したアンケートを口頭で説明した後に配布した．アンケート用紙は，卒後2年目看護師と先輩看護師とに分けて配布した．アンケート用紙は無記名記載とし，その提出をもって調査協力に同意を得たとした．

4）アンケートの回収

回収箱に投函する．

4. データ分析の方法

アンケート用紙の回収後，卒後2年目看護師と先輩看護師に分けて，それぞれ集計をした．更に，卒後2年目看護師と先輩看護師の到達目標の設定に違いがあるか，回答項目を比較した．

5. 倫理的配慮

本研究は，静岡赤十字病院看護倫理委員会にて承認を受けた．アンケートは無記名とし，筆跡から個人が特定されないようにすることで，匿名性を守った．また，アンケートで得られた情報は本研究の目的以外には用いないこと，アンケートは集計後はシュレッダーで破棄することとした．

Ⅳ．アンケート結果

アンケートの回収率は，卒後2年目看護師は100％，先輩看護師は80％であった（表1）．

1. 卒後2年目看護師のみ回答項目

1）到達目標（21）：助言を得ながら個人目標が達成できる

新人看護師教育プログラムが完了し，「達成できる個人目標を立案し，評価していくことで更に成長できると思うため」と個人の目標を意識し始めていた．

2）到達目標（41）：助言を得ながら，よく使用する医療材料・機器の正しい取り扱いができる

「卒後2年目になると自分で学ぶことを求められるため」と答えており，新人看護師のときと比べ置かれている状況の違いを感じていた．

3）到達目標（54）：院内外における赤十字の諸活動を理解する

「外の活動に参加できていないため」と，日々の看護業務以外にも関心を示していた．

2. 先輩看護師のみ回答項目

1）到達目標（2）：助言を得ながら日常の体験の中から気づき学ぼうとする

到達目標（3）：経験から対象にとって苦痛となる事を感じることができる

先輩看護師は，「時間内に業務をこなすことが主になってしまいがち」であると思っており，日常の体験から気づきや感じることを到達目標として選択していた．

2）到達目標（15）：助言を得ながら対象のニーズを充足することがある

「日々変化する患者家族のニーズに目を向けてほしい」，「患者に関心を持ち，先輩看護師に相談しながら援助をしてほしい」という思いがあった．

3）到達目標（16）：行為をすることで自分なりの満足感を得ることがある

ニーズを充足することで「看護の楽しさややりがいを感じ，仕事を続けてほしい」という思いを持っていた．

4）到達目標（17）：助言を得ながら自分の行為を振り返ることができる

「新人のときに比べ振り返る機会が少ない」現状から，「自己の振り返りをすることで，

表1　アンケート結果

	到達目標	卒後2年目看護師4人(%)	卒後2年目看護師　理由	先輩看護師16人(%)	先輩看護師　理由
知識	(1)日常のケアに必要な基本的知識(バイタルサイン、検査値などの正常値、所属部署の代表的な疾患の病態生理、治療)を活用できる	1人(25%)	得た情報をアセスメントし、看護につなげることが重要であると思うため	4人(25%)	基本的な知識の習得が必要なため
	(2)助言を得ながら日常の体験の中から気づき学ぼうとする			5人(30%)	時間内に業務をこなすことが主になってしまいがちなため
					自分で学ぼうとする姿勢が大事なため
	(3)経験から対象にとって苦痛となる事を感じることができる			4人(25%)	患者が大変そうにしていても気づかないため
判断	(4)助言を得ながら優先度を決定できる	1人(25%)	後輩ができ、任されることも増え、優先を決め安全安楽に効率よく行えるようにしたいため	3人(19%)	患者の状態から優先度を決められるようになってほしいため
	(5)時間をかければ自分で判断することもある			1人(6%)	急変時に戦力になってほしいため
	(6)断片的だが状況把握ができる			1人(6%)	3年目でやる新人指導に活かすため
	(7)指導を受けながら倫理上の問題点について着目できる			1人(6%)	思いやりの看護をしてほしいため
行為	(9)対象のニーズに目を向けようとしている		相手が求めていること、必要なことに、気づくことができず、先輩からの助言により気づくことがほとんどであったため	5人(30%)	受け持ち看護師としての意識をもってほしいため
					作業ではなくケアとして考えてほしいため
					ニーズを知ることで、個別性のある看護を提供してほしい
	(11) 対象を一個人として尊重し受容的・共感的態度で接することができる	2人(50%)	業務になれると同時に患者さんへの態度や対応も初心に戻って振り返るべきだと思うため	5人(30%)	日常の業務の中から自ら気づき、学ぶことが必要なため
			難しい事例の患者のだと一歩引いて関わってしまうことがあり、共感が上手くできなかったため		患者に関心を寄せてほしいため
	(13)対象および家族に実施しようとする行為について説明を行い同意を得て実践ができる			1人(6%)	訴えの多いか患者・家族の対応も出来るようになってほしいため
行為の結果	(15)助言を得ながら対象のニーズを充足することがある			4人(25%)	患者にもっと関心をもち、先輩NSに相談しながら援助してほしいため
					日々変化する患者家族のニーズに目を向けてほしいため
	(16)行為をすることとで自分なりの満足感を得ることがある			5人(30%)	看護の楽しさややりがいを感じ、仕事を続けてほしいため
					よかったと思える経験を積み重ねてほしいため
					自分なりに考えて行動することで満足感を得てほしいため
	(17)助言を得ながら自分の行為を振り返ることができる			6人(37%)	新人のときに比べ振り返る機会が少ないため
					自己の振り返りをすることで、経験を今後に活かしてほしいため
目標達成	(19)所属部署の概要・看護目標・体制について理解できる			1人(6%)	部署の中での立ち位置を把握することは大切であるため
	(21)助言を得ながら個人目標が達成できる	1人(25%)	達成出来る個人目標を立案し、評価していくことで更に成長できると思うため		
社会人・組織としての行動	(26)対象の負担を考慮し、物品を適切に使用する			2人(12%)	患者にもっと関心をもち、先輩NSに相談しながら援助してほしいため
					スムーズに業務を運ぶためには必要なため
	(28)助言を得ながら、対象などに対し適切な情報提供を行う			1人(6%)	知識が浅い部分があり適切な情報提供をするためには助言が必要だと思うため
	(30)看護記録の目的を理解して、看護記録のガイドライン等に即して正確に作成することができる			1人(6%)	看護記録の重要性をわかってほしいため
医療チーム	(32)決められた業務を助言を得ながら時間内に引き継ぐことができる	1人(25%)	声かけをこまめに行い時間内に引き継げるようにしたいため	1人(6%)	時間外に業務を引き継いでいることがあるため
	(34)業務上の報告・連絡・相談を助言を得ながら適切に行うことができる	3人(75%)	後輩と組むことが増え、いつも以上にパートナー間の声かけを行いミスのないようにしたいため	8人(50%)	自らすすんで連絡報告相談が行えていないため
			突然の出来事は、焦ってしまい相談や報告がままならないため		先輩に頼り過ぎで主体性に欠けるところがあるため
	(35)助言を得ながら複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動している	2人(50%)	行うべきことが多いと、優先度を決めることが難しいと感じるため	2人(12%)	ケアの優先度を考えて行動できていないため
			自立し、動けるようになりたいため		重症度の高い患者を受け持つことが増えてくるため
	(36)自分の役割と責任を理解し、ともに働く同僚の行動に気づいて声かけができる	3人(75%)	自分の業務だけでなく、周りの様子を見て行動できるようにしたいため	6人(37%)	2年目の立場や役割を理解し、チームで働いていることを自覚してほしいため
					周りが見えるようになることが求められるため
	(37)助言を得ながら関連各部門・他職種と連携できる	2人(50%)	他部署との関わりで、スムーズに連絡をとることができないため	2人(12%)	連携が必要であるが、関連各部門・他職種への理解が浅いため
医療安全	(41)助言を得ながら、よく使用する医療材料・機器の正しい取り扱いができる	1人(25%)	2年目になると自分で学ぶことをも求められるため		
自己教育	(46)看護部門や所属部署の教育計画にそって学習する			1人(6%)	与えられた課題を自ら率先して行うことが大事であるため
	(47)助言を得ながら自分の学習課題を明確にできる			4人(25%)	学習を深め質を上げていく時期であるため
					成長するためには課題を持つことが大切であるため
	(48)その場に応じて自分の考えを述べられるよう努力する	1人(25%)	自分から意見を発する事が難しいと感じる場面があるため	5人(30%)	自分の意見を相手に伝わるようにまとめる力を鍛えてほしいため
					カンファレンスでの発言が不足していると思うため
業務改善・研究	(49)所属部署の業務改善や研究活動を知っている			1人(6%)	自分のことで精一杯だと思うが、だからこそ視野を広げる努力も必要であるため
赤十字活動	(54)院内外における赤十字の諸活動を理解する	1人(25%)	外の活動に参加できていないため		

経験を今後に活かしてほしい」と思い到達目標としていた.

5）到達目標（46）：看護部門や所属部署の教育計画に沿って学習する

先輩看護師は卒後2年目看護師に対して，学習への姿勢を重視しており，「与えられた課題を自ら率先して行うことが大事」であると回答していた.

6）到達目標（47）：助言を得ながら自分の学習課題を明確にできる

卒後2年目看護師も個人の目標を意識していたが，先輩看護師は，卒後2年目看護師に対し，「学習を深め質を上げていく時期」であり，「成長するためには，課題を持つことが大切である」と考えていた.

3. 卒後2年目看護師と先輩看護師回答項目

1）到達目標（1）：日常のケアに必要な基本的知識を活用できる

先輩看護師は「基本的な知識の習得が必要である」と感じており，卒後2年目看護師は「得た情報をアセスメントし，看護につなげるため」を理由としていた.

2）到達目標（4）：助言を得ながら優先度を決定できる

先輩看護師は，知識を活用し「患者の状態から優先度を決められるようになってほしい」と思っており，卒後2年目看護師も後輩ができたことに後押しされ，優先度を意識していた.

3）到達目標（9）：対象のニーズに目を向けようとしている

患者との関わりにおいて，先輩看護師は「作業ではなくケアとして考え」「（患者の）ニーズを知ることで，個別性のある看護を提供してほしい」と思っていた．卒後2年目看護師も同様に到達目標として選択していたが，その理由は「相手が求めていること，必要なことに気づくことができず，先輩からの助言により気づくことがほとんどであったため」であった.

4）到達目標（11）：対象を一個人として尊重し受容的・共感的態度で接することができる

先輩看護師は「患者に関心を寄せて欲しい」「日常の業務の中で自ら気づき学ぶことが必要」と考え選択していた．一方，卒後2年目看護師は「難しい事例の患者だと一歩引いて関わってしまうことがあり，共感が上手くできなかった」と必要性を認識しつつも困難を感じていた.

5）到達目標（34）：業務上の報告・連絡・相談を助言を得ながら適切に行うことができる

先輩看護師は，看護の質の向上を求めており，「自ら進んで報告連絡相談が行えていないため」「先輩に頼り過ぎで主体性に欠けるところがあるため」と理由を述べていた．卒後2年目看護師は「後輩と組むことが増えいつも以上にパートナー間の声かけを行いミスのないようにしたいため」「突然の出来事は焦ってしまい相談や報告がままならないため」というようにすでに実践する中で報告・連絡・相談の重要性と困難さを感じていた.

6）到達目標（36）：自分の役割と責任を理解し，ともに働く同僚の行動に気づいて声かけができる

先輩看護師は卒後2年目看護師に対して「卒後2年目看護師の立場や役割を理解しチームで働いていることを自覚」し，「周りが見えるようになること」を求めており，到達目標としていた．卒後2年目看護師も，「自分の業務だけでなく周りの様子を見て行動できるようにしたい」と考えており，両者は到達目標に対し同じ思いであるといえる.

7）到達目標（48）：その場に応じて自分の考えを述べられるよう努力する

先輩看護師は「自分の意見を相手に伝わるようにまとめる力を鍛えてほしい」と考えており，卒後2年目看護師は「自分から意見を発することが難しいと感じる場面がある」と感じていた.

V．考　察

卒後2年目看護師と先輩看護師が到達目標として回答した項目を比較した結果，患者のニーズへの気づきと対応，経験の少ない技術に対する認識，チーム医療への意識について特徴が見られた.以下に，この3項目について考察し，最後に今後の教育実践について考察した.

1. 患者のニーズに気づき対応すること

2年目看護師は患者のニーズに気づくことが難しいと感じ，業務をこなすだけでなく患者のニーズを意識することを到達目標に設定している．これは先輩看護師も到達目標に設定しており両者が共通して課題と認識しているといえる．しかし，患者のニーズの重要性は共通認識出来ているものの，卒後2年目看護師は気づくとこと自体に困難を感じていることに対し，先輩看護師は気づいて欲しいという内容の記載が多くあり，目標到達に向けて困難を感じている内容にズレが生じていると考える．先輩看護師は卒後2年目看護師との語りの場が少ないと感じており[3]，このような現状から，到達目標の設定は共通していても日常の関わりの中でその詳細を把握することは難しく，実際の指導では先輩看護師と卒後2年目看護師との間にズレが生じていた可能性がある.

また，先輩看護師は，患者家族のニーズを意識して看護をした結果，振り返りを行いさらなる成長や満足感を得ることで看護の仕事に対する面白さややりがいを感じてほしいと思っている．先行研究においても，先輩看護師は，卒後2年目看護師に患者との関わりの中から看護を考えてもらい看護の面白さを感じてもらいたいと思っているとされており[3]，当病棟の現状と同様である．卒後2年目看護師はその1年間を通してやりがいや楽しさの実感，自律心の芽生えを体験するとされており[1]，患者のニーズに目を向けた看護を模索しながら実践することで，先輩看護師が卒後2年目看護師に求める姿に近づいていくと考える.

2. 経験の少ない技術に対する認識

卒後2年目看護師は経験が少ない技術に体して不安があり，1年目の延長として到達目標に挙げていた．卒後2年目看護師の思いを調査した先行研究では，卒後2年目看護師が困った場面の一つに経験の少ない技術をあげており[5]，経験不十分な技術への理解と支援を求めていること[1,5]が明らかになっている．本アンケート結果も，一般的な卒後2年目看護師の傾向と同様であるといえる.

一方で，先輩看護師は技術に関する項目を到達目標として挙げていなかった.先輩看護師は，技術そのものの習得だけでなく，自分で考えてから報告や相談をするなど看護の質や個別性を深めることを求めていた．そのため，先輩看護師にとって技術そのものの習得は，優先度が低くなり，到達目標に挙がらなかったと予測できる.

3. チーム医療への意識

自分のことで精一杯の状況から，一緒に働いている周囲へも目を向けることの必要性は，卒後2年目看護師と先輩看護師共に到達目標に設定していた．卒後2年目看護師は，後輩とパートナーを組むようになり，１人の看護師として自立すること,優先度を考えること,パートナー間で声を掛け合うことが重要であるとしていた．先輩看護師は，自立して考えた上で先輩看護師に報告や相談をすることを求めていた.卒後2年目看護師と先輩看護師は，自立して考えることは共通していたが，その先の報告や相談に対しては認識が異なっていることがわかった.この結果から，患者ニ ーズを捉えることと同様に，目標設定は共通の認識であったが，その内容には違いがあることが考えられた.

4. 今後の教育実践への示唆

アンケート結果から，卒後2年目看護師と先輩看護師の設定する到達目標には，違いがあることが明らかになった．また，共通して挙げられている到達目標も，目標としている理由は異なる内容であることがわかった．ここから，到達目標の達成に向けてその詳細を互いに把握し

なければ，的確な指導にならない可能性があるといえる．

先輩看護師は，卒後2年目看護師が目標到達に向けて何に困難を感じているのかに注目して，指導内容を考える必要がある．そして，卒後2年目看護師は，先輩看護師から質や個別性を意識した看護実践を求められており，このことを認識することが必要であると考える．

しかし，卒後2年目になると1年目のときのように先輩看護師と十分に話し合い指導を受ける時間がなくなるのが現状である．卒後2年目看護師と先輩看護師が互いに思いを伝え共有する機会を作ることが必要であると考える．

また，今後の卒後2年目看護師支援の検討において，A病棟の卒後2年目看護師の現状や先輩看護師の卒後2年目看護師への思いは，先行研究と比べ著しい違いはなかった．そのため，すでに提唱されている方法や先行研究の結果を参考にできると考える．

Ⅵ. 結　語

卒後2年目看護師は，経験が不十分な技術に対して不安と未達成感があった．先輩看護師は，卒後2年目看護師に対して，患者のニーズに自ら気づき考え，相談してほしいと感じていた．また，これらを通して，やりがいを感じてほしいと思っていた．両者は，患者のニーズに気づくことを到達目標としていたが，目標到達に向けて困難を感じている内容に違いがあった．到達目標の設定は共通していても日常の関わりの中でその詳細を把握することは難しいと予想される．以上より，互いに到達目標達成に向け，思いを共有できる支援が必要である．

本研究の限界は，到達目標のみを調査したため，すでに達成している項目については把握していないことである．

Ⅶ. 文　献

1）内野恵子，石塚淳子，酒井太一．2年目看護師の体験から考える成長発達過程．順天堂保健看研 2017；5：59-66.

2）西千秋．2年目看護師教育に関する文献検討．大阪医大看研誌 2018；8：84-91.

3）塚本景子．卒後2年目看護師に関わる先輩看護師の教育に対する思い．神奈川保健福大看教研録 2015；40：121-8.

4）村上由美子，玉置千春，佐藤亜紀ほか．卒後2年目看護職員と看護管理者が設定している到達目標の比較．札幌市病院誌 2014；73（2）：45-52.

5）丸山訓子，小出智子，中野佳奈子ほか．卒後2年目看護師への先輩からの指導を考える-困った場面で受けた支援からの分析-．日看会論集：看護教 2015；45：218-21.

連絡先：岩本実里；静岡赤十字病院　2-7病棟
〒420-0853　静岡市葵区追手町8-2　TEL(054)254-4311（内線3701）